



市長就任のあいさつ

飛騨市長 都竹 淳也

引き続き3期目の市政を担わせていただくこととなりました。2期目の4年間は、新型コロナウイルス対策と物価高騰対策に明け暮れたと言っても過言ではなく、市民の皆さんの中にもつらい思いをされた方が多かったことと思います。しかし、この間、市民のみなさんの協力を得ながら、暮らしや事業の課題を共有し、様々な対策を講じる中で、市全体として一体感を感じられたことは、飛騨市にとって大きな財産になったと感じております。一方で、360度全方位の政策を

展開し、蒔いてきた種が花開き、実を結んできたものも多く見られるようになってきました。これからの4年間、これらの取り組みをさらに伸ばしていくと共に、初心に立ちかえり、市民の皆さんの願いにしっかりと向き合いながら、これまで一貫して進めてきた「元気であんな誇りの持てるふるさと飛騨市」を仕上げたいと考えております。

このうち、「元気づくり」の面では、カミオカラボの展示リニューアルや夜間照明の再整備による夜景づくり、メリハ

リのある農地の活用、広葉樹活用の推進、地域外・海外への販路開拓、外国人材の活用や生活支援などを通じ、人口減少時代の産業基盤づくりを進めてまいります。

「あんきづくり」の面では、公私連携保育所型認定こども園の開設や作業療法士らと連携した学校作業療法や思春期健診の実施、在宅高齢者の口腔ケアやオンライン診療、空き家管理のための法人設立などを進めます。

「誇りづくり」の面では、姉小路氏城跡の保存活用や歴史的公文書の調査、薬草商品の開発・販売などの地域資源の活用や、関係人口と一体となった自然環境保全などに取り組んでまいります。

これらに加え、働く人材や地域の担い手が減少している中で、「持続可能な飛騨市づくり」を進めていくことも求められます。特に公共交通、医療・介護などを支える人材を官民で連携して確保する仕組みを作ることや、地域コミュニティ組織の再編、空き家管理活用のための法人の設立などを通じ、少ない人数でも暮らしの質を確保できる基盤づくりを進めてまいります。また、市役所においても、徹底した業務のアウトソーシングやDXの推進によって、持続可能な体制を作りたいと考えております。

今後も前向きな取り組みを積極的に進めながら、持続可能かつ誰もが楽しく暮らせるまちを実現するために邁進してまいります。

都竹市長に市政運営の抱負を伺いました

●選挙を終えての感想は？

前回の選挙に続き、無投票という結果でしたが、選挙の準備段階で各地において開催させていただいた市政報告会の場で、多くの市民の皆さんの声をお聞かせいただきました。この機会を通じて、市民の皆さんの願いや心配事はとても身近なところにあることを再認識し、その声に真摯に向き合い、応えていくことこそが私の仕事の原点であることをあらためて感じました。

●今後4年間の課題は？

あらゆる分野において人手不足、担い手不足が顕著になってきています。これまででは何とか人材を確保しようとしてきましたが、今後は人口が減っていくことを前提として、少ない人数でもできる仕組みを考えていかなければなりません。商工業、農林業、医療・介護、地域、市役所などすべての分野において、持続可能な新しい手法を作り出していく必要があると思います。

●3期目の抱負は？

これまでスローガンとして掲げてきた「元気であんな誇りの持てるふるさと飛騨市」をつくるための仕上げの期間にしたいと考えています。多くの施策を整理整頓しながら、より力強いものにしていきます。並行して、10年後、20年後にも公共サービスやコミュニティを維持していくための仕組みづくりに積極果敢にチャレンジし、これからの飛騨市を担うこともたちへと自信を持って引き継いでいける「持続可能な飛騨市」をつくっていきます。